

後記

十六夜日記の本文についての研究は、昭和のはじめ玉井幸助博士によって九条家旧蔵本が紹介され、岩波文庫本として翻刻されて以来比留間氏の遺稿「十六夜日記」が唯一のもので、その後ほとんど進んでいない。

たまたま細川家の永青文庫に幽斎公の奥書をもつ写本と、幽斎公御筆と伝えられる十六夜日記の写本が所蔵されていることを知り、それらを一度他本と校合してみようと思ったのが、本書作製の動機だった。本文を翻刻するのなら語句索引も作ろうと、中本環氏とはかって索引作りにとりかかったのであるが、氏は間もなく健康上の理由でこの仕事を続けることが出来なくなり、校本も索引も最初から私一人でやらなければならなくなってしまった。

校本を作るにつけては、多くの方々の恩恵を賜った。「諸本略解」に掲げた文庫、図書館、大学研究室の方々である。なかならず底本を、それも影印本としてかかげることをご快諾下さった細川護貞氏に対してまず厚くお礼申し上げたい。諸本中書写年代も古く、しかも兼如筆、幽斎の奥書をもつという善本を底本とすることができたのは、ひとえに氏の御厚情によるものと深く感謝するものである。さらにまた、貴重な文献の複写や自由な調査をお許し下さった、文庫、図書館、研究室の方々に衷心より謝意を表する次第である。

十六夜日記の伝本はここにかかげた二十九本だけではない。存在は知りながら調査の届かなかった本もあるし、又目は通しながら校本に加えなかったものもある。今後更に大方の御教示を頂きながら、その欠を補なうよう努力したいと思う。

最後に本書のような出版を、採算を度外視してこころよくお引き受け下さった笠間書院の池田猛雄氏に厚く御礼申し上げます。